

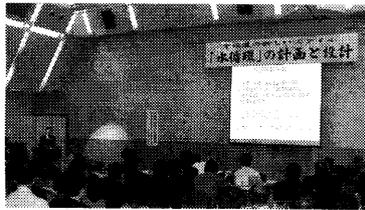
# 「市民の合意形成こそ」

セミナー「水循環の計画と設計」

## 循環型まちづくりに向け

国内外における水の再利用や水循環などに関する特別セミナー「水循環の計画と設計」が16日、ホテルプリムローズ大阪で約270名が出席し開催された。

セミナーでは浅野孝・カリフォルニア大学名誉教授が「持続可能な水資源としての処理水再利用」について講演。灌がい経済的限界、飲用再利用での市民合意形成の重要性等を説明した。また、大垣真一郎・東



関係者ら270名が出席

京大学大学院教授は「水循環をめぐる諸課題」と題し、脆弱な水循環の高度化に向け、合理的な計画や新考案促進の必要性などを強調した。

パネルディスカッションでは、コーディネーターを藤木修・同総合研究所下水道研究部長が務め、パネリストの田中宏明・京都大学大学院教授、船水尚行・北海道大学大学院教授、吉村和就・グローバルウォーター・ジャパンG.W.J代表、小林保・大阪府下水道課計画グループ長がそれぞれの見解を披露した。

この中で「再生水の利用方法とリスクの検討を」「低コスト・小型のコンポスト型トイレの普及が必要」「世界の環境改善に貢献する仕組みづくりが不可欠」「循環型まちづくりへ活用を」等の意見が出された。

なお、会場からは汚泥処理の海外ビジネスチャンス、微量有害化学物質への対応などの質問が出され、パネリストが「日本製品はコスト競争力などが課題」「さらなる基礎的研究が重要」などと回答した。



# 「海外でビジネスを」

水道サロン 企業に呼びかけ  
吉村氏が講演

水道技術研究センターの水道サロンが15日、グローバルウォーター・ジャパン代表の吉村和就氏を講師に迎えて開催された。水事業の海外事例に詳しい吉村氏は、日本企業が海外で商売するには「営業力を強化するべき」とアドバイス。

さらに「日本はプラントは良いものを作る上に維持管理も良いが、コストダウンに改善の余地がある」と分析。また、このままでは日本企業がガラパゴス諸島の生き物のように、その地域でしか生きられなくなってしまうと警告した。

水産部 水産課 水産課長 水産課長 水産課長